

---

# 恨み晴らしの灰色月（旧）

希那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恨み晴らしの灰色月（旧）

### 【Nコード】

N4760I

### 【作者名】

希那

### 【あらすじ】

とある中学校に、いじめられっ子の少年がいた。

周りの大人は見て見ぬふり。

凶器を使われることもあり、ついには殺されてしまう…。

彼が殺された夜、復讐が始まる。

連載型に切り替えたため、感想などはそちらにお願いします。

**（前書き）**

初投稿です。

性転換、残酷な描写などがキーワードの通りあります。

苦手な人は読まないことをおすすめします。

とある中学校、いわゆるいじめられっ子である少年がいた。

彼は、生まれ付き不幸だった。

生まれてすぐに親に捨てられ、今の育て親に拾われるまでの間にも、酷い目に遭いながらの生きていた。

拾われてからも、今の親が本当の親では無い事や、

近くに居れば不幸に巻き込まれることなどから、いじめを受けていた。

今の家に籠もっていても、結果は同じだった。

外から罵声を浴びせられ、家のひとが居ないときは、無理矢理押し入られて殴られたりすることもあった。

こっちからやり返そうとしても、返り討ちにされるだけだった。

正直、相手のいじめっ子達が憎かった。

また、力の無い自分や、見て見ぬふりをする大人たちも憎かった。

中学校になつてからは、いじめはさらにひどいものとなった。

ただ暴行を加えるだけでは飽き足らず、凶器を持ってくるような者もいた。

つまり、殺されかけるような日もあったということだ。

しかし、今日は殺されかけるではすまなかった。

殺されたのだった。

人間には、絶望した。自分が楽しめれば後はどうでもいいとしか考えていないのだから。

誰が殺し、誰が殺されようが、自分に関係なければ、知ったことでは無いと人間は思っているのだろう。

僕が、そんな人間の一人であることに、憤りを感じたこともあった。

殺される瞬間、思ったことは、  
「すべての人間が憎い」  
ただそれだけだった。

急に、自分の意識が戻ってきた。  
同時に、自分の姿が変わっていることに気がついた。  
黒ずくめの少女に、そして、人を殺すのがあたりまえである「妖怪」  
になっていた。

場所はよく覚えている、自分が捨てられた森だった。  
横には、切り株に黒一色の笛と、矢じりのついた大鎌が置かれていた。

触れると、使い方が頭に入ってきた。  
笛は、いじめられっ子と、いじめっ子のそれだけに聞こえる音色を奏でるもので、洗脳なんかもできるものだ。  
鎌は、人間の首を刈るだけでなく、矢じりから妖気を流し、洗脳したものに妖術を使わせることもできる。

自分がするべきことはわかった。人間を滅ぼすこと。  
今宵は満月、不吉なことを起こすには丁度良い。  
月の満ち欠けによって妖怪達の妖気の大きさも変わり、今は最も大きくなる状態だからだ。

僕：いや、私の復讐劇は、これから始まるうとしていた。  
地面を蹴り、私は夜空へと跳んだ。

いじめっ子の家には、扉や窓などを妖術ですりぬけて潜入し、そ

の家族ごと皆殺しにした。

むごいと思われるだろうけども、私…元々の僕が味遭わされた苦痛はこんなではすまない。

人でなしと言われても、知ったことではない。すでに人ではないから。

すれちがった通行人を洗脳し、他の人間を殺させたりもした。

洗脳する為の音色だけは、どんな人間にでも効果があるようだ。

自分以外のいじめられっ子に恨みを晴らさせるのも、面白いかもしれない。

八件目の家では、いじめっ子女子が一人であり、血の付いた鎌を持った私を見て怯えていた。

「お前の席、ねーから。」と他人の席を占領しながら言う女子がいた。

暗くて少しわかりにくいのが、顔からしてこいつがその女子だろう。

だから、私は言っちゃった。

「あなたの助かる術すべ、もう無いから。」と。

絶望したような表情で、彼女は私に首を刳られた。

私…元々の僕をいじめの対象にしていた人間は、ざっと六、七十人はいたはずだ。

三日くらいに分けて、どう足掻くかでも見てみようか。

そんなことを考えながら、私の復讐は続いてゆく…。

…そういえば、何故少女になったのだろう？

まあ、妖怪は男より女のほうが妖気を操るのはうまいとか、そん

な理由だろう。

洗脳とか、けっっこう妖気を使ったような気もするし、そっぴいじつとで納得しておこう。

(後書き)

出来が悪いと思われても、仕方ないだろうとか思いながら文章を打っていました、初投稿の希那と申します。

酷評などはむしろどうぞ。その分アドバイスとかをお願いします。

連載の予定は無いですが、要望があったら後々、一旦これを消してするかもしれません。そんな要望ないと思っておりますが。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4760i/>

---

恨み晴らしの灰色月（旧）

2010年10月17日01時42分発行